福岡県北九州市小倉北区方言の立ち上げ詞

小川　俊輔

Ⅰ．はじめに

1．調査対象地：調査対象地である北九州市小倉北区は、100 万の人口を擁する同市の中心区である。小倉北区内所在の JR 小倉駅は、福岡・熊本を経由して鹿児島に至る鹿児島本線、別府・大分を経由して宮崎に至る日豊本線の始発・終着の駅であり、交通上重要な役割を果たしている。同駅には新幹線のぞみも停まり、この駅を中心に多くの商業施設が建ち並んでいる。この商業施設地域を取り囲むようにして広大な住宅街が広がっている。沿岸地域にはかつて四大工業地帯の一つに数えられた北九州工業地帯を形成する工場群がある。小倉は江戸時代には小笠原藩（小倉藩）15 万石の城下町として栄え、戦後復元された小倉城は市のシンボルとなっている。現在も魚町・鍛冶町・米町などの地名が残り、往時を偲ぶことができる。明治以降は八幡製鉄に代表される工業の都市として、現在は商業都市として栄えている。

2．調査年月日：2005 年 10 月 9 日　午後 1 時から午後 3 時まで
　　2005 年 10 月 10 日 午後 5 時から午後 6 時半まで

3．話者：両羽久（昭和 2 年生）、小川徹（昭和 18 年生）

4．調査者・調査場所：小川俊輔・それぞれの話者の自宅

5．調査方法：統一調査票による質問調査

6．その他：①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。
　　②話者のコメント、調査者の気づきは< >内に記した。

Ⅱ．調査結果

Ⅰ．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1)どっこいしょ。一休みしよう。

○下ッコイショ。ヤスモー　カ。どっこいしょ。休もう。

<無言で座ることが多い。>

(2)どうれ。出かけることにしよう。

○ヨシ。デカケヨー。よし、出掛けよう。

<無言で立ち上がることが多い。>

(3)よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○フー。ヤッ下　ツイタ。ふう。やっと着いた。

(4)しまった。もうちょっとで落ちるところだった!

○アー　ヨカッタ　ノー。オチンデ　スンダ。ああよかった。落ちずに済んだ。

(5)くわばらくわばら。恐ろしかった!

○アー　ヨカッタ　ノー。コワカッター。ああよかった。怖かった。

<「クワバラクワバラ」はこのような場面では使わない。雷が近くに落ちた時などに言う>

(6)しめた! 今度の魚は大きいぞ。

○オ　コツキョル　ゾ。おお、魚が食いついてきている！

(7)ままよ。飛び越えるしかない。

○ヨッシャー。イクカー。よし。行こう。

(8)なにくそ! 負けてなるものか。

○クッソクソ　マケテタマルカ。くそう、負けてなるものか。

(9)しめしめ! 誰も気がついていない。

○ヨシ　キガツイトラン　ノ。よし、誰も気がついてないぞ。

(10)ちぇっ。つまらないなあ。

○ヤヤ　ナー。嫌だなあ。

(11)ちくしょう! 仕返しをしてやる。

○チクショー　ヤリヤガッタ　ナ　コノヤロー。ちくしょう、やりやがったなこの野郎。

(12)くそっ! 覚えていろ!

○クソッタレー　オボエトレー。くそったれ、覚えていろよ！

(13)おやおや、いったいどうしたの。

○オー　ナンシタン　カ。ドーシタン　カ。何があったんだ。どうしたんだ。

(14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○エヘン　エヘン　オレワ　チカラモチ　ヤ。えへん、えへん、俺は力持ちだ。

(15)はてな、ここはどこだろう?

○アー　ドコデ　マチゴータ　カノー。うーん、どこで間違ったのだろう。

II、他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16)はい、承知いたしました。

○ハーイ　ワカリマシタ。はい、分かりました。

(17)はい。宜しゅうございます。

○ハイ　ケッコー　デス。はい、結構です。

<「ヨロシューゴザイマス」との言い方はしない。>

(18)ええ、ここに居ます。

○ハイ　ココニ　イマス。はい、ここに居ます。

(19)んだ。私の傘です。

○ハイ　ワタシン　デス。はい、私の(もの)です。

(20)さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ソー　ソー　アンタノ　ユートーリ。そうそう、あなたの言うとおりだよ。

(21)ほいきた。おやすいご用です。

○ヨシキタ。オヤスイゴヨーヤ。よしきた。おやすいご用だよ。

(22)よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャ　ヤリマッショー。よし、やりましょう。

(23)よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨッシャ　ヤリマッセ。よし、やりますよ。

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○ヨッシャ　イキマッセ。よし、行きましょう。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○ヘッチャラ　ヘッチャラ。そんなのは簡単なことだよ。

<「ヘノカッパ」という言い方はある。>

(26)いえいえ、とんでもございません。

○イエイエ　トンデモゴザイマセン。いえいえ、とんでもございません。

(27)なんの、たいしたことではございません。

○ナンノ　ナンノ。タイシタコトジャ　ゴザイマセン。なんのなんの、大したことじゃありません。

(28)なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。

○ナーニ　スグ　ナオル　ヨ。なあに、すぐ治るよ。

(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!

○ナンダイ　チョーシノ　イーコト　バカリ　イーヤガッテ。なんだい、調子のいいことばかり言いやがって。

(30)いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○イヤイヤ　エライメニ　アイマシタ　ヨ。いやいや、ひどい目に遭いました。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○ヘッ　カッテニ　シヤガレ。へっ、勝手にしやがれ。

<「ヘン」とは言わない>

(32)なめるんじゃねぇよ。こいつ!

○ナメルンヤナイ　ゾ　コノヤロー。なめるんじゃないぞ、この野郎。

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って!

○ジョーダン　ヤ　ネー。クチカラ　デマカセ　イーヤガッテ。冗談じゃない。口から出任せをいいやがって。

(34)だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!

○ダマレ。デタラメ　バカリ　イーヤガッテ。黙れ。出鱈目ばかりいいやがって。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていられねえ。

○ソーワ　トンヤガ　オロス　カイ。ダマッテ　イラレッカッ　テンダ。そうは問屋がおろすかい。黙っていられないよ。

(36)うそもへチマもありゃしねえ。我慢(がまん)できねえ。

○ウソモ　ヘチマモ　アルカ。ガマン　ナラン。嘘もへチマもあるか。我慢できない。

(37)寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴトワ　ネテイエ　コノヤローメ　ガ。寝言は寝て言え、この野郎。

(38)あたりきしゃりきのけつのあな。当たり前だ!

○アッタリメーノ　ハナシ　ダ。当たり前の話だ。

(39)きみょうきてれつだ。それは変だ

○キミョーキテレツナ　ハナシ　ダ。奇妙きてれつな話だ。

(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ホホー　ソイツハ　カンシンナ　オコサンダ。ほほう、それは感心なお子さんだ。

(41)まいったまいった。しかたがない。

○マイッタ　ナー　ドーショーモ　ナイナー。シカタ　アルマイ。参ったなあ、どうしようもないなあ、仕方ない。

Ⅲ、他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○スミマセーン。ヤクバワ　ドコデス　カ。すみません。役場はどこにありますか。

(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○オキャクサーン　ヨッテイキマセン　カ。お客さん、寄っていきませんか。

(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○ムコー　ミテ　ミンデスカ。ムコーニ　コーエンガ　アリマッショーガ。向こうを見てみてください。向こうに公園があるでしょう。

(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?

○オイオイ　コンナ　アサッパラカラ　ドコ　イクンダ。おいおい、こんなあさっぱらから、どこに行くんだ。

(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい?

○オイオイ　コレカラ　ナンスル　ツモリ　ヤ。おいおい。これから何をするつもりなんだ。

(47)いざ、さらば。

○デワデワ。それでは。

(48)ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○ササ　ドーゾ。ゴエンリョナク　メシアガッテ　クダサイ。ささ、どうぞ。遠慮なく、

召し上がって下さい。

(49)さて、そろそろ一服しませんか。

○サーテ　ソロソロ　イッブク　ヤリマセン　カ。さて、そろそろ一服しませんか。

(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○オイオイ　チョット　シズカニ　セン　カイ。おいおい、ちょっと静にしないかい。

(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オイ　コラ　マンビキスルンジャナイ。おい、こら、万引きをするな。

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか!

○コリャー　ナンベン　イヤー　イイン　ジャ。エーカゲンニ　セン　カイ。こら、何遍言えば分かるんだ。いい加減にしなさい。

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○クソッ　ウラギリヤガッタ　ナ。くそ、裏切りやがったな。

(54)どっこい。その手には乗らない。

○ドッコイ　ソノテニワ　ノラン　ゾ。どっこい、その手には乗らない。

(55)どうだ、参ったか?

○ドヤ　マイッタ　カ。どうだ、参ったか。

(56)せいの、よいしょ!

○セーノ　ヨイショ。せーの、よいしょ。

(57)ようい、どん!

○ヨーイ　ドン。ようい、どん。

(58)いっせいの、で!

○セーノ。せーの。

(59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ!

○ヨイショ　ヨイショ　モウヒトイキ　ヤ。よいしょ、よいしょ、もう一息だ。

(60)うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ウントコドッコイショ　モウスコシ　ヤ。うんとこどっこいしょ、もう少しだ。

(61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッセー　ワッセー　マツリダ　ワッセー。わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。　<「ワッショイ」もある。>

(62)はじめはぐう、じゃんけん、ぽん! あいこでしょ。

○ハッジメッワグー　ジャンケン　ポン。アッイコッデ　ショ。はじめはぐう、じゃんけん、ぽん。あいこでしょ。<「サッイショッワグー」という言い方もある。決まったリズム、音程がある。>

(63)きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○キオツケー　マエー　ナラエ。ナオレ。きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

<「キョーツケー」という先生もいた。>

(64)きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ　レーィ　チャクセキ。起立、礼、着席。

(65)ばんざい、ばんざい。やった、やった!

○バンザーイ。ヤッタ　ゼー。万歳。やったぜ。

(66)えいえいおう。頑張るぞ。

○エイエイオー。ガンバロー。えいえいおう。頑張ろう。

(67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○ナカムラクンノ　タンジョービオ　シュクシテ　カンパイシマス。カンパイ。オメデトー。中村君の誕生日を祝して、乾杯します。乾杯。おめでとう。

(68)やっほう、やっほう。

○ヤッホー。やっほー。

(69)ふれえ、ふれえ、白組。

○フレー　フレー　シーローグーミー。ふれえ、ふれえ、白組。

(70)おにはそと、ふくはうち。

○オニワーソト　フクワーウチ。鬼は外、福は内。

(71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○アンガキャー　トンデモネー　ヤロー　ダ。あの子は、とんでもない野郎だ。

(72)それみたことか、わんぱく坊主。

○ホレ　ミロ　クソボーズ　ガ。ほれみろ、くそ坊主が。

(73)ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ザマーミロッテン　ダ。イー　キミ　ヨ。ざまあ、みろ。いい気味だ。

(74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○コンチクショー。ヒデーコト　イーヤガル。ちくしょうめ。ひどいことを言いやがる。

(75)このやろう。どうしてくれようか。

○コノヤロー。ドーシテクレヨーカ　ノ。このやろう。どうしてくれようか。

(76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○コン　タワケガ。フザケタコター　ユーンジャナイ。たわけ。ふざけた事を言うんじゃない。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○コン　バカガ。イーカゲンナ　コター　ユーナ。この馬鹿者。いい加減なことを言うな。

(78)あなかま、静かにしなさい。

○コリャー。シズカニセンカ。こら。静にしなさい。

<「アナカマ」とは言わない>

(79)しいいっ、静かにして!

○シーッ。シズカニ　シロ。しいいっ。静かにしろ。

(80)ちちんぷぷい、蛙、蛙、生き返れ。

○チチンプイプイ　チチンプイ。ちちんぷいぷい、ちちんぷい。

(81)あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アッカンベー。オッニサッン　コッチラ。あっかんべい、鬼さん、こちら。

<決まったリズム、音程がある。>

(82)あっぱれ、お見事。立派です。

○アッパレ。デカシタ。ゴリッパ。あっぱれ。でかした。ご立派。

(83)でかした、でかした。日本一。

○デカシタ　スゲー　ニホンイチ　ヤ。でかした、すごい、日本一だ。

(84)しっけい!　すみません。

○ゴメン　ゴメン。スンマセン。ごめんごめん。すみません。

(85)あばよ、達者でな。

○アバヨ。ゲンキデ　ナ。あばよ。元気でな。

Ⅲ. 総括(まとめ)

当該地域方言における立ち上げ詞について、気付きを4点述べる。

1) 繰り返しによる表現が多い

具体的には(8)(14)(20)(25)(26)(27)(30)(45)(46)(47)(48)(50)(59)(61)(69)(80)(84)で繰り返しによる表現が回答された。質問文では繰り返しの表現が用いられていないもののうち、(8)(25)(27)(30)(46)(47)(80)(84)で繰り返しの表現が回答された。

2) 独特のリズム・音程をもった表現があった

具体的には(62)(81)が該当する。共に童歌のようなリズム・音程であった。(62)はじゃんけんの時のかけ声、(81)は鬼ごっこをする時のかけ声である。

3) 慣用表現の一部が方言化した表現がみられた

具体的には(35)(36)が該当する。

4) 普段の会話の中では聞かれない強く、高いアクセントが観察された

(8)(11)(12)ほか多くの項目で強く、高いアクセントが観察された。感情の起伏に即した荒々しい言い方であった。その際に、声を荒げて、喉に力を込めたような、わざとしわがれたような声を出す場合のあることが確認された。

(おがわ　しゅんすけ　広島大学大学院教育学研究科博士課程後期)